

Ⅲ 調査の結果

自転車利用環境の改善について

西宮市では、安全・安心で快適な自転車利用環境を整備するため、自転車走行空間の整備や交通ルールを学ぶ自転車安全教室の開催などに取り組んでいます。

市民のみなさまの自転車利用環境の状況をおうかがいし、今後の施策推進に役立てたいと考えています。

問9. あなたの世帯全体で所有している自転車の台数をご記入ください。

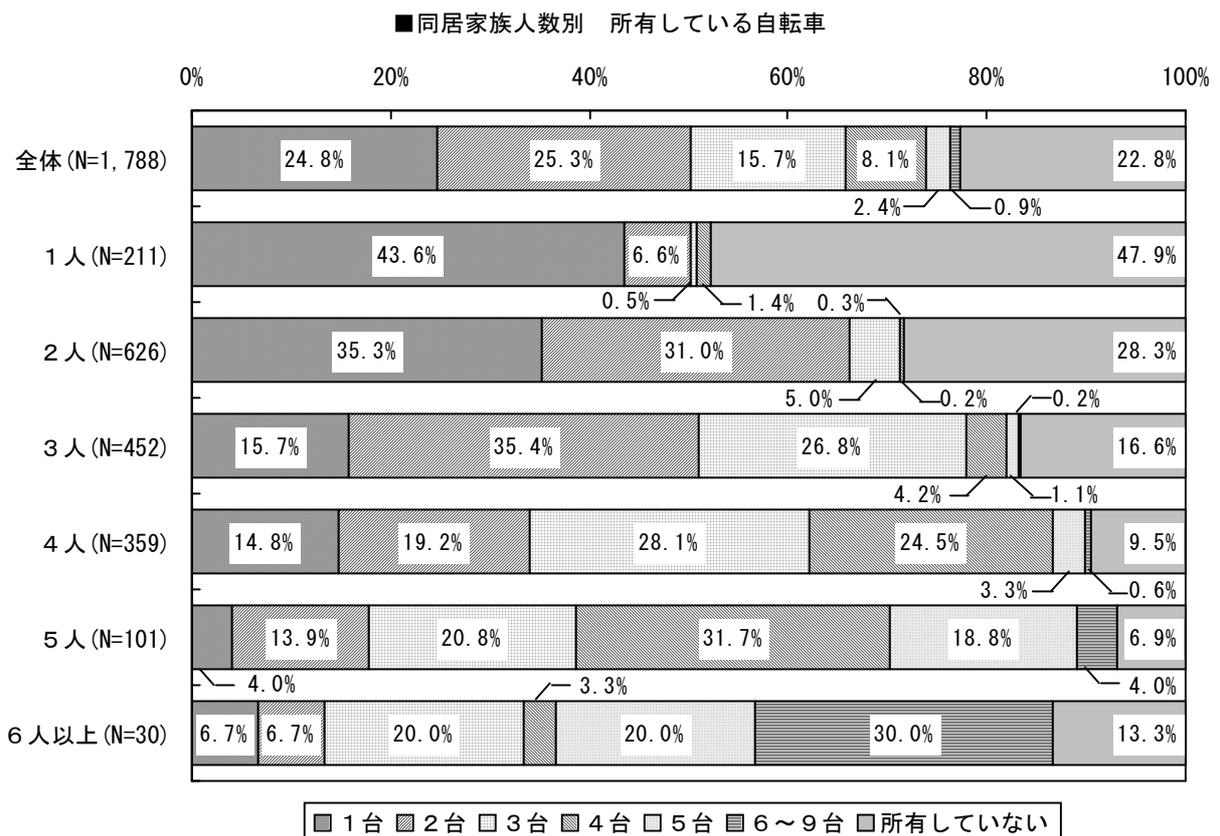
所有していない場合には0（ゼロ）を記入してください。

A. 所有している自転車

B. Aのうち、普段から利用している自転車

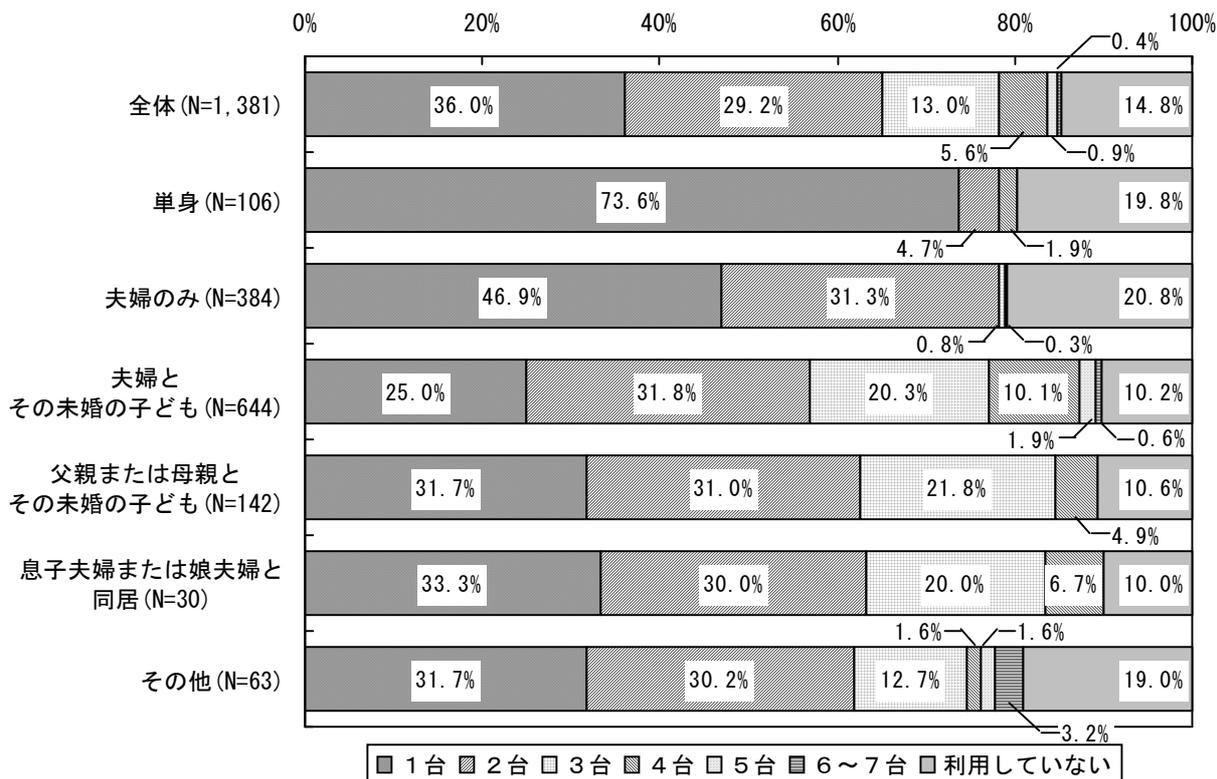
C. Aのうち、電動アシスト付き自転車

- 所有している自転車をみると、「2台」(25.3%)が最も多く、次いで「1台」(24.8%)、「3台」(15.7%)となっている。また、「所有していない」が22.8%となっている。
- 同居家族人数別にみると、所有している自転車の台数は、家族の人数と同じか1つ少ない世帯が過半数を占める傾向にある。
- 1人暮らしでは、「所有していない」の割合が全体に比べて多い。



- 所有している自転車のうち、普段から利用している自転車をみると、「1台」(36.0%)が最も多く、次いで「2台」(29.2%)、「3台」(13.0%)となっている。
- 同居家族構成別にみると、単身世帯および夫婦のみ世帯では「1台」が最も多く、夫婦とその未婚の子ども世帯では「2台」が最も多く「4台」も約1割で全体に比べて多い。父親または母親とその未婚の子ども世帯、および、息子夫婦または娘夫婦と同居世帯では「1台」「2台」がそれぞれ約3割で「3台」が約2割と同傾向になっている。

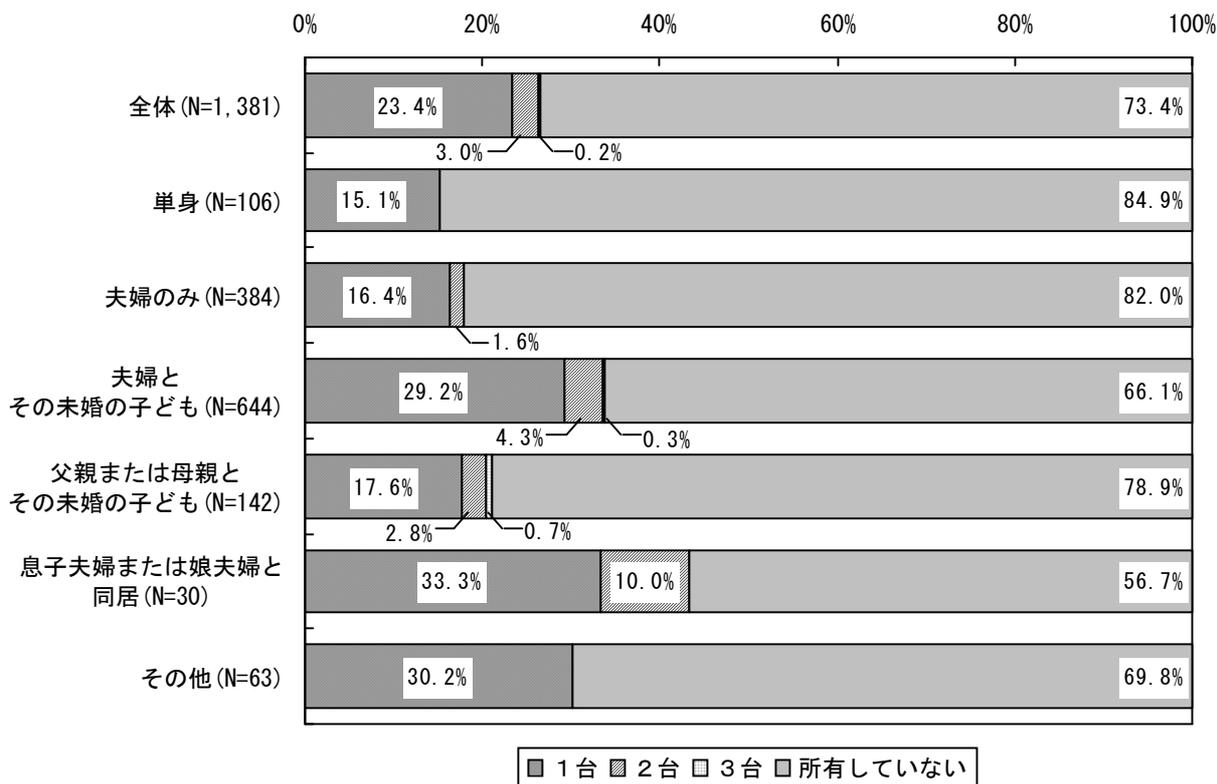
■同居家族構成別 所有している自転車のうち、普段から利用している自転車



●世帯構成「その他」については多様な世帯構成を含むため、結果を図表にのみ表示し、分析コメントからは除外している。

- 所有している自転車のうち、電動アシスト付き自転車を見ると、「1台」(23.4%)が最も多くなっている。また、「所有していない」が73.4%となっている。
- 同居家族構成別にみると、1台以上の電動アシスト付き自転車を所有している割合は、息子夫婦または娘夫婦と同居世帯で4割強と最も多く「2台」も約1割で全体に比べて多い。夫婦とその未婚の子ども世帯では3割強、父親または母親とその未婚の子ども世帯では約2割で傾向にやや差がある。

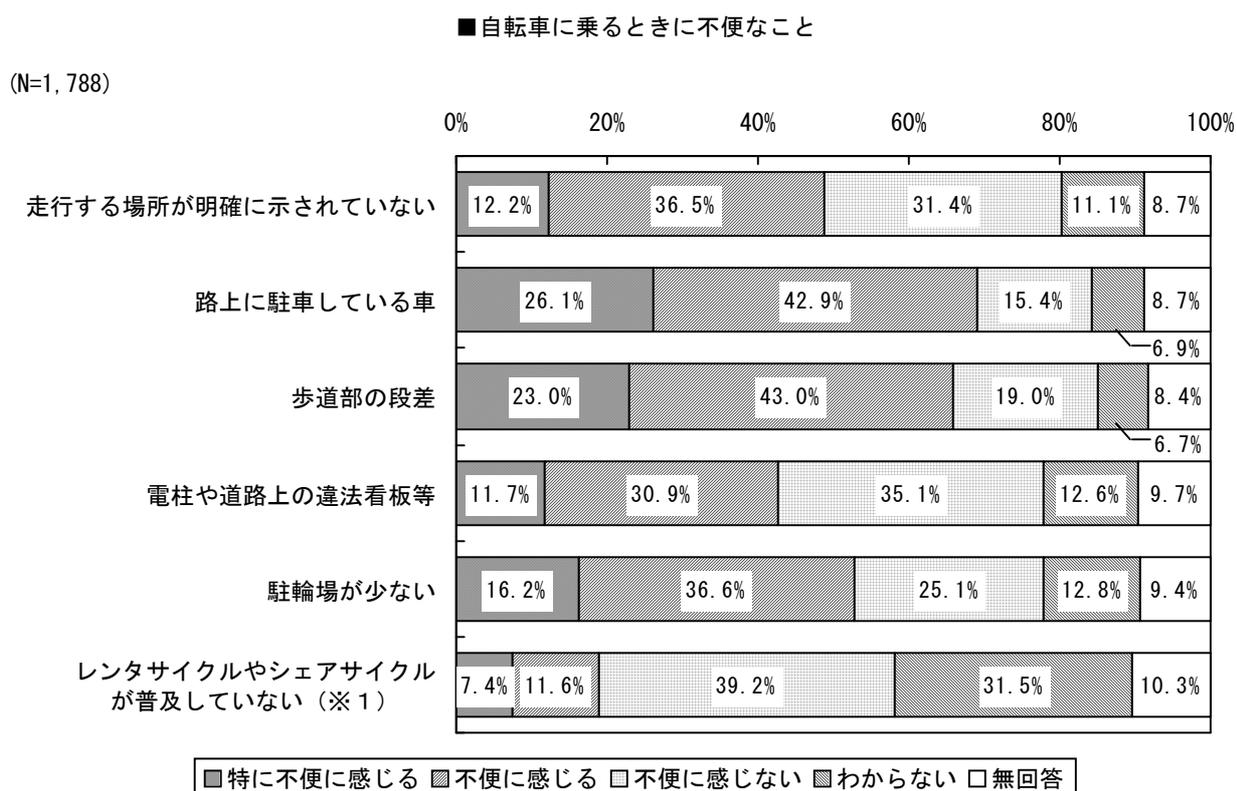
■同居家族構成別 所有している自転車のうち、電動アシスト付き自転車



●世帯構成「その他」については多様な世帯構成を含むため、結果を図表にのみ表示し、分析コメントからは除外している。

問 10. 自転車の利用環境に関して、自転車に乗るときに不便に感じている（感じるであろう）ことはどのようなことですか。それぞれ、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 自転車に乗るときに不便なことをみると、「特に不便を感じる」の割合は、〈路上に駐車している車〉（26.1%）で最も多く、次いで〈歩道部の段差〉（23.0%）、〈駐輪場が少ない〉（16.2%）となっている。
- 〈レンタサイクルやシェアサイクルが普及していない〉ことを「特に不便を感じる」「不便を感じる」の合計の割合は 19.0%と、他の項目に比べて少なくなっている。



※1 シェアサイクル：まちの中に設置された複数のサイクルポート（無人の自転車貸出・返却拠点）から、必要な時に自転車を借り、都合の良いサイクルポートへ返却できる新たな交通サービス

- 選択肢の「G. その他」については、自由記述形式をとっており内容に統一性がないため結果には表示していない。
- 分析コメント中の「特に不便を感じる」「不便を感じる」の合計の割合（%）は、それぞれの回答数を合計して算出し、小数点第2位以下を四捨五入している。このため、グラフ中の構成比の合計と一致しない場合がある。

- 性・年齢別に「特に不便を感じる」の割合をみると、〈歩道部の段差〉は50歳代の女性、〈路上に駐車している車〉は20歳代以下の男性で、全体に比べて多い傾向にある。

■性・年齢別 自転車に乗るときに不便なこと 「特に不便を感じる」の割合
単位：％

| 「特に不便を感じる」 | N (有効回答者数) | 走 行 す る 場 所 が 明 確 に 示 さ れ て い な い | 路 上 に 駐 車 し て い る 車 | 歩 道 部 の 段 差 | 電 柱 や 道 路 上 の 違 法 看 板 等 | 駐 輪 場 が 少 な い | イ レ ク タ ル が 普 イ ク ル や シ エ ア サ |
|------------|---------------|---|--|----------------------------|--|---------------------------------|---|
| 全体 | 1,788 | 12.2 | 26.1 | 23.0 | 11.7 | 16.2 | 7.4 |
| 男性・18～19歳 | 13 | 15.4 | 38.5 | 23.1 | 15.4 | 23.1 | 7.7 |
| 男性・20～29歳 | 41 | 9.8 | 36.6 | 14.6 | 9.8 | 19.5 | 9.8 |
| 男性・30～39歳 | 70 | 10.0 | 24.3 | 12.9 | 10.0 | 18.6 | 7.1 |
| 男性・40～49歳 | 98 | 19.4 | 27.6 | 18.4 | 14.3 | 21.4 | 16.3 |
| 男性・50～59歳 | 134 | 13.4 | 29.9 | 20.9 | 6.7 | 18.7 | 6.0 |
| 男性・60～69歳 | 120 | 17.5 | 25.8 | 25.0 | 17.5 | 16.7 | 10.8 |
| 男性・70～79歳 | 144 | 7.6 | 22.9 | 18.8 | 15.3 | 11.8 | 5.6 |
| 男性・80歳以上 | 67 | 6.0 | 16.4 | 16.4 | 14.9 | 7.5 | 7.5 |
| 女性・18～19歳 | 17 | 11.8 | 23.5 | 35.3 | 11.8 | 11.8 | 11.8 |
| 女性・20～29歳 | 50 | 6.0 | 22.0 | 16.0 | 6.0 | 22.0 | 10.0 |
| 女性・30～39歳 | 130 | 13.1 | 26.9 | 20.0 | 7.7 | 19.2 | 7.7 |
| 女性・40～49歳 | 212 | 11.3 | 32.5 | 27.8 | 14.2 | 22.6 | 6.1 |
| 女性・50～59歳 | 203 | 14.3 | 32.5 | 34.0 | 14.8 | 16.7 | 7.9 |
| 女性・60～69歳 | 162 | 14.8 | 26.5 | 27.2 | 10.5 | 12.3 | 7.4 |
| 女性・70～79歳 | 162 | 13.0 | 21.6 | 24.7 | 11.7 | 13.6 | 6.2 |
| 女性・80歳以上 | 86 | 4.7 | 9.3 | 15.1 | 4.7 | 7.0 | 2.3 |

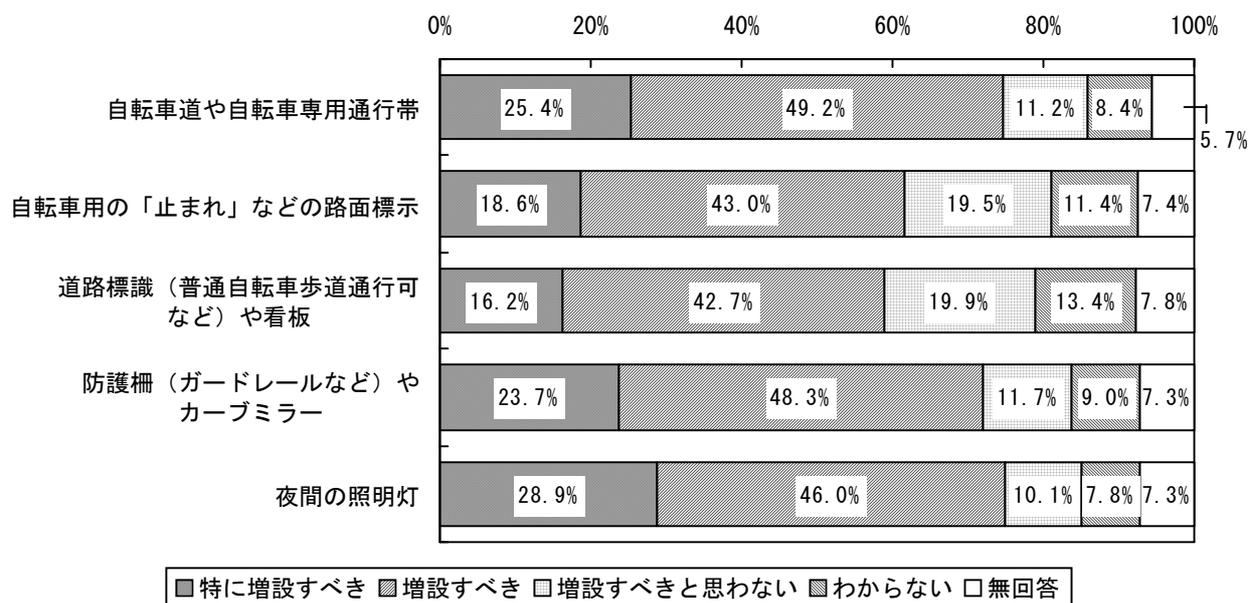
- 表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示している。
表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示している。

問 11. 安全で快適に自転車が走行するために、今後どのような道路施設を増設していくべきだと思いますか。それぞれ、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 自転車走行のための道路施設を増設をみると、「特に増設すべき」の割合は、〈夜間の照明灯〉（28.9%）で最も多く、次いで〈自転車道や自転車専用通行帯〉（25.4%）、〈防護柵（ガードレールなど）やカーブミラー〉（23.7%）となっている。
- すべての項目で「特に増設すべき」「増設すべき」の合計が5割以上と高い割合になっている。

■ 自転車走行のための道路施設を増設

(N=1,788)



- 選択肢の「F. その他」については、自由記述形式をとっており内容に統一性がないため結果には表示していない。

- 性・年齢別に「特に増設すべき」の割合をみると、特に多い傾向を示す道路施設は見られなかった。なお、〈道路標識（普通自転車歩道通行可など）や看板〉〈自転車用の「止まれ」などの路面標示〉は、20歳以下の女性で全体に比べて少ない傾向にある。また、〈夜間の照明灯〉〈自転車道や自転車専用通行帯〉〈防護柵（ガードレールなど）やカーブミラー〉は、男女共に80歳以上で少ない傾向にある。

■性・年齢別 自転車走行のための道路施設の増設 「特に増設すべき」の割合

単位：％

| 「特に増設すべき」 | N（有効回答者数） | 行自 帯転 車 道 や 自 転 車 専 用 通 | ど の 自 転 車 用 の 「 止 ま れ 」 な | 道 道 通 路 標 識 （ 普 通 自 転 車 歩 | ど ） 防 護 柵 （ ガ ー ド レ ー ル な | 夜 間 の 照 明 灯 |
|-----------|-----------|---|---|---|---|----------------------------|
| 全体 | 1,788 | 25.4 | 18.6 | 16.2 | 23.7 | 28.9 |
| 男性・18～19歳 | 13 | 15.4 | 7.7 | 23.1 | 30.8 | 38.5 |
| 男性・20～29歳 | 41 | 34.1 | 26.8 | 12.2 | 31.7 | 31.7 |
| 男性・30～39歳 | 70 | 24.3 | 14.3 | 11.4 | 28.6 | 30.0 |
| 男性・40～49歳 | 98 | 28.6 | 26.5 | 20.4 | 28.6 | 29.6 |
| 男性・50～59歳 | 134 | 26.1 | 21.6 | 23.1 | 32.1 | 31.3 |
| 男性・60～69歳 | 120 | 23.3 | 25.8 | 25.8 | 24.2 | 35.8 |
| 男性・70～79歳 | 144 | 25.0 | 24.3 | 20.1 | 16.7 | 22.2 |
| 男性・80歳以上 | 67 | 14.9 | 10.4 | 11.9 | 13.4 | 17.9 |
| 女性・18～19歳 | 17 | 23.5 | 5.9 | 5.9 | 29.4 | 41.2 |
| 女性・20～29歳 | 50 | 22.0 | 8.0 | 6.0 | 20.0 | 38.0 |
| 女性・30～39歳 | 130 | 30.0 | 10.0 | 9.2 | 26.2 | 34.6 |
| 女性・40～49歳 | 212 | 28.3 | 16.0 | 15.6 | 31.1 | 36.3 |
| 女性・50～59歳 | 203 | 30.5 | 19.7 | 16.7 | 23.6 | 29.1 |
| 女性・60～69歳 | 162 | 25.9 | 24.1 | 19.8 | 22.8 | 30.2 |
| 女性・70～79歳 | 162 | 24.7 | 19.8 | 17.3 | 17.9 | 23.5 |
| 女性・80歳以上 | 86 | 14.0 | 11.6 | 5.8 | 9.3 | 11.6 |

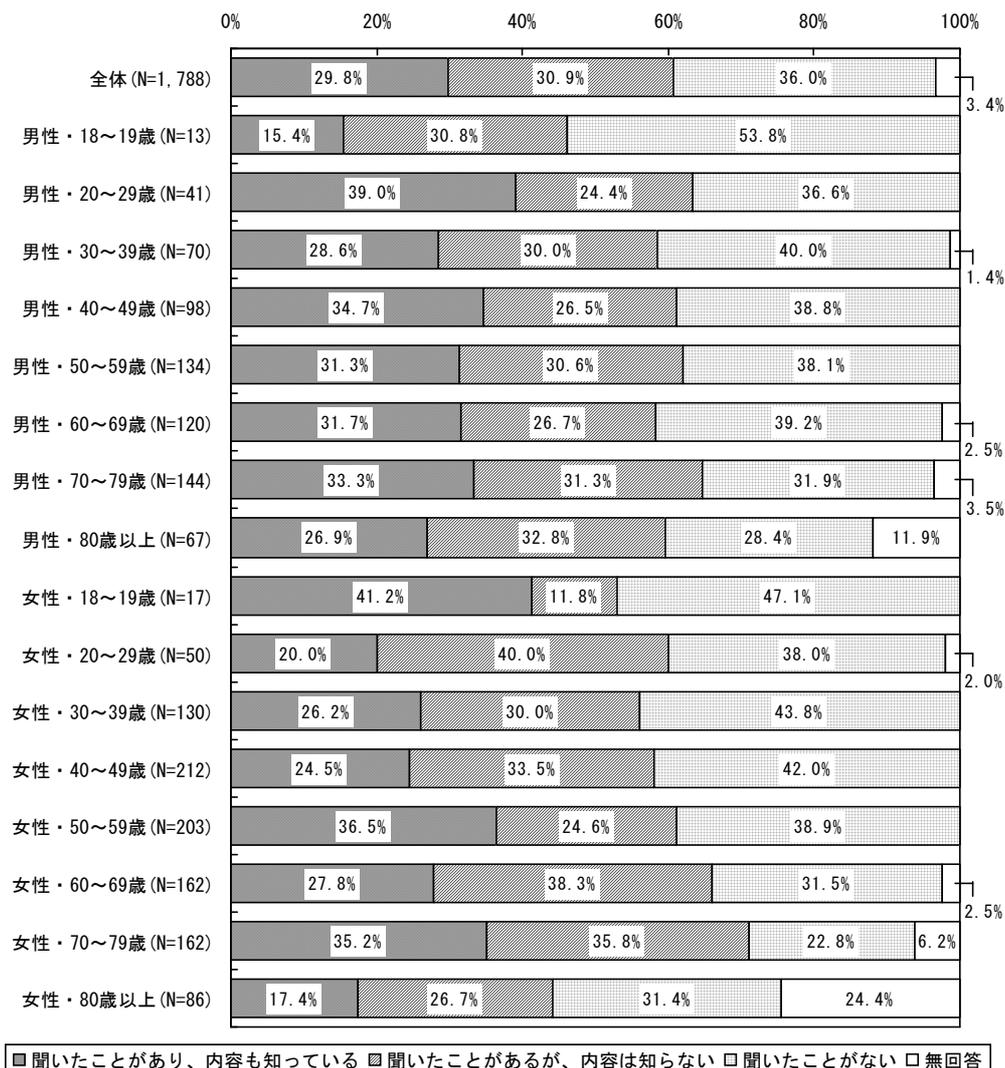
- 表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示している。
表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以上下回るものを示している。

問 12. 自転車の安全利用に関する以下のA～Cの間について、それぞれ、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- A. 「自転車安全利用五則」という基本ルールが定められていることを知っていますか。
- B. 平成 27 年（2015 年）6 月に道路交通法が改正され、自転車で危険な行為を繰り返した 14 歳以上の者には「自転車運転者講習」の受講が命じられることを知っていますか。
- C. 平成 27 年（2015 年）10 月より兵庫県では条例で、県内において自転車を利用する場合、自転車利用者及び未成年者の保護者や事業者に対し、自転車損害賠償保険等への加入が義務づけられています。あなたが自転車で加害者となる事故を起こした場合の賠償に備えた保険又は共済に加入していますか。

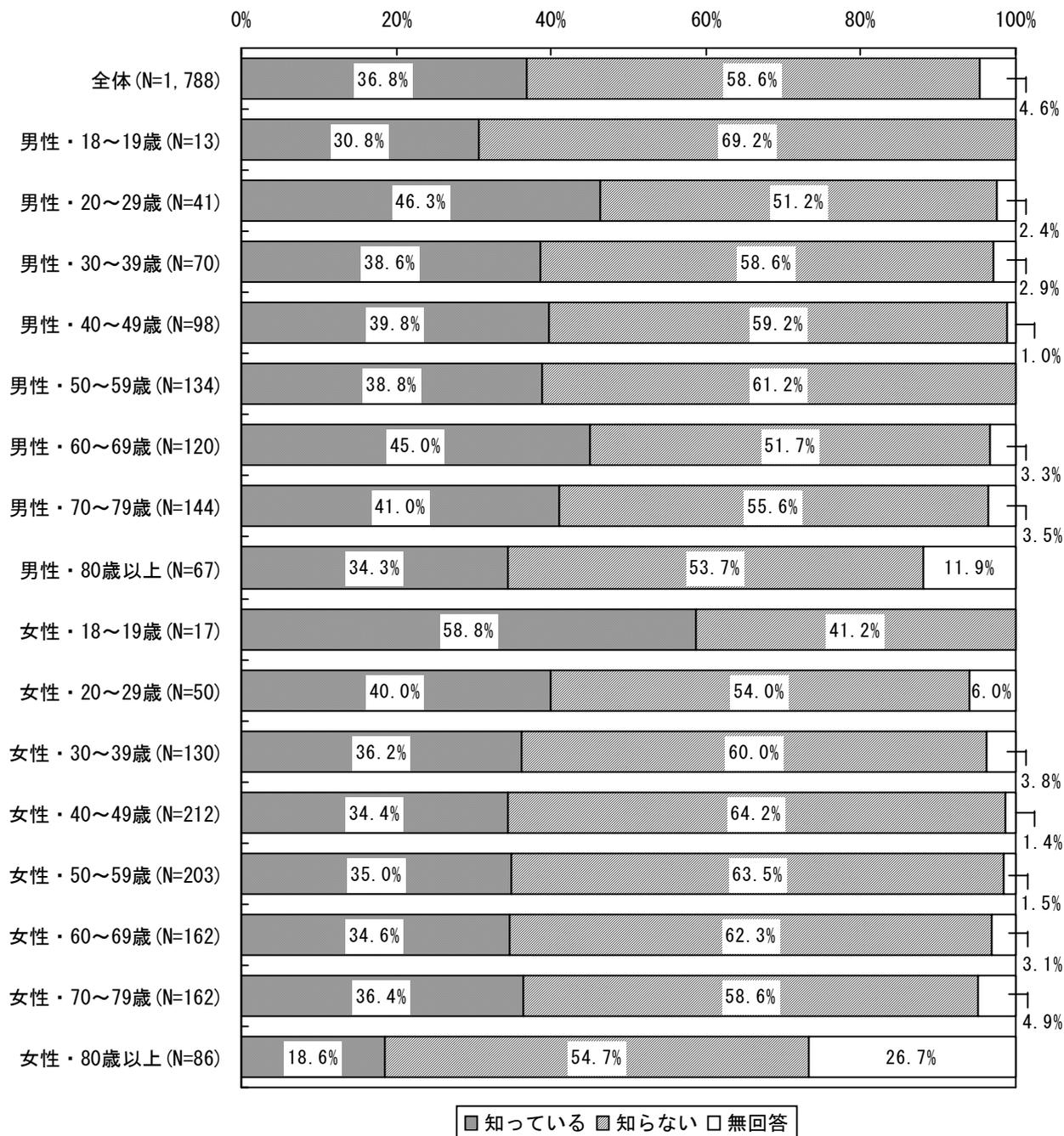
- 基本ルール「自転車安全利用五則」の認知度をみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」が 29.8% となっている。また、「聞いたことがない」が 36.0% となっている。
- 性・年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」の割合は、20 歳代の男性、および、50・70 歳代の女性で全体に比べてやや多く、20 歳代・80 歳以上の女性で全体に比べてやや少ない傾向にある。

■基本ルール「自転車安全利用五則」



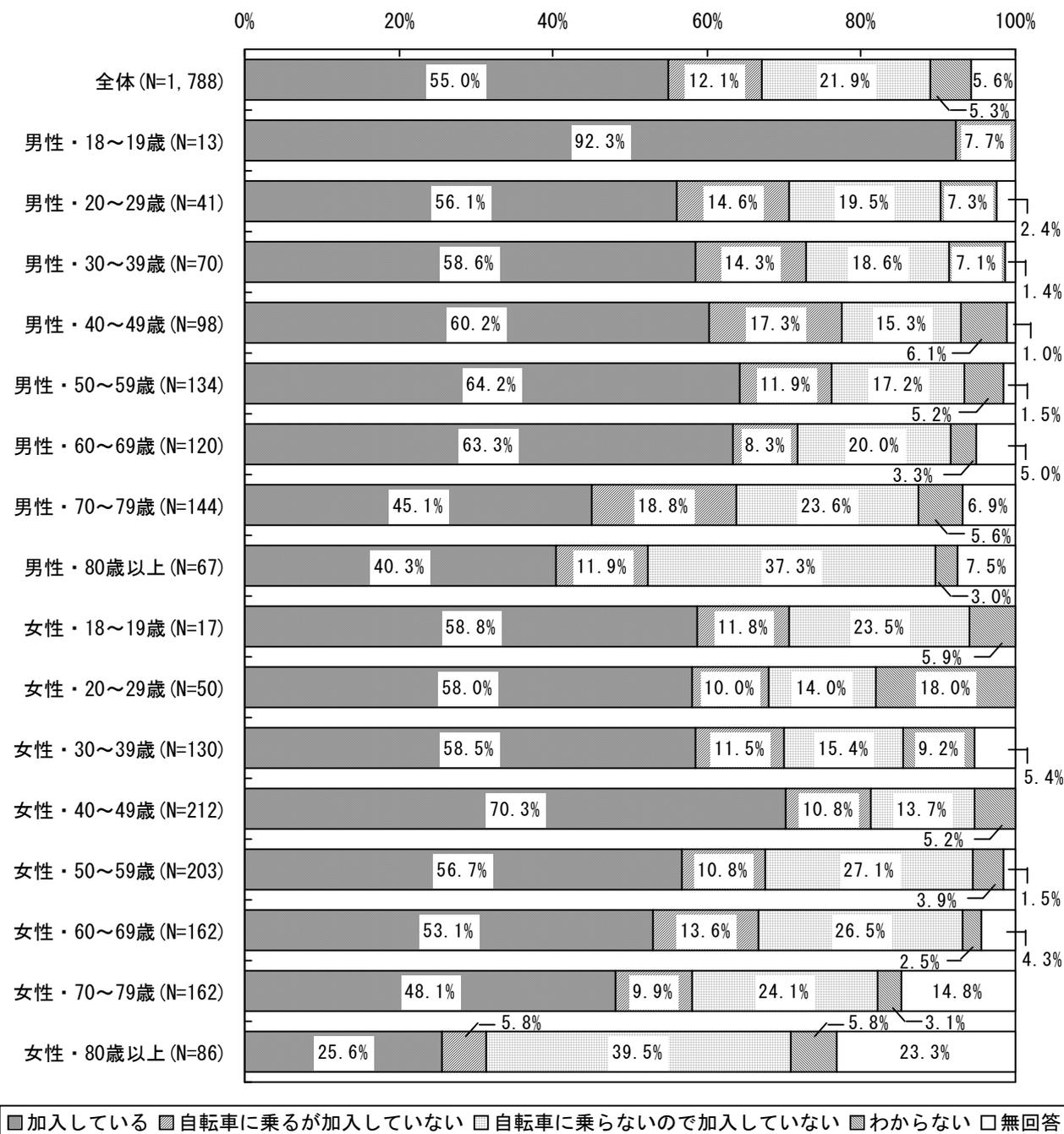
- 自転車で危険な行為を繰り返した者に対する「自転車運転者講習」の受講の認知度をみると、「知っている」が36.8%となっている。
- 性・年齢別にみると、「知っている」の割合は、20・60歳代の男性でやや多く、80歳以上の女性で少ないが、男女共にほとんどの年齢で約3～4割となっている。

■自転車で危険な行為を繰り返した者に対する「自転車運転者講習」の受講



- 自転車損害賠償保険等への加入状況をみると、「加入している」が 55.0%となっている。また、「自転車に乗るが加入していない」が 12.1%となっている。
なお、自転車に乗る人に限ってみると、自転車損害賠償保険等への加入率は 76.0%（※1）となる。
- 性・年齢別にみると、「加入している」の割合は、40歳代の女性で多く、男女共に80歳以上で少ないが、男女共にほとんどの年齢で約5～6割となっている。
- 「自転車に乗るが加入していない」の割合は、40・70歳代の男性で全体に比べてやや多い。

■ 自転車損害賠償保険等への加入状況



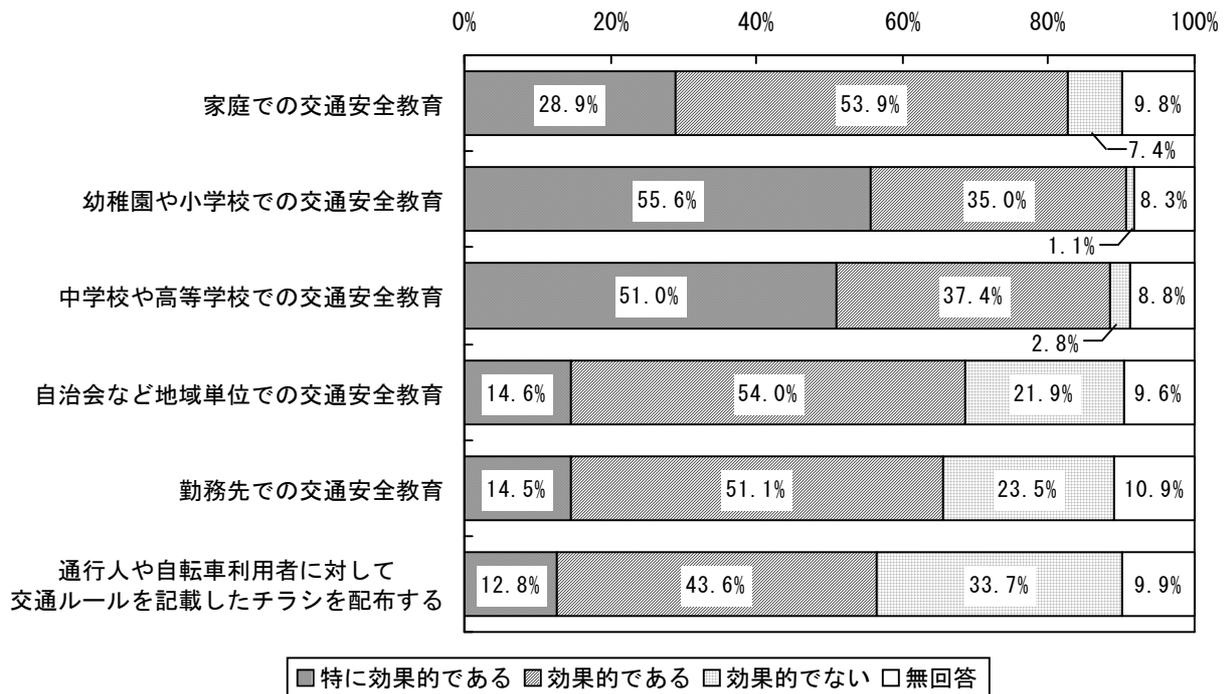
※1 『「加入している (984 件)」 / 「加入している (984 件)」 + 「自転車に乗るが加入していない (216 件)」 + 「わからない (95 件)」』により算出。

問 13. 自転車を安全に利用するためのルールやマナーについて、どのような場で周知することが効果的だと思いますか。それぞれ、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 自転車を安全に利用するためのルールやマナーについての周知をみると、「特に効果的である」の割合は、〈幼稚園や小学校での交通安全教育〉（55.6%）で最も多く、次いで〈中学校や高等学校での交通安全教育〉（51.0%）、〈家庭での交通安全教育〉（28.9%）となっている。

■ 自転車を安全に利用するためのルールやマナーについての周知

(N=1,788)



- 選択肢の「G. その他」については、自由記述形式をとっており内容に統一性がないため結果には表示していない。

- 性・年齢別に「特に効果的である」の割合をみると、〈幼稚園や小学校での交通安全教育〉は、20～40歳代の女性で全体に比べて多い。
- 家庭や学校での交通安全教育は、男女共に80歳以上では全体に比べて少ない傾向にある。

■性・年齢別 自転車を安全に利用するためのルールやマナーについての周知 「特に効果的である」の割合
単位：%

| 「特に効果的である」 | N (有効回答者数) | 家庭での交通安全教育 | 幼稚園や小学校での交通安全教育 | 中学校や高等学校での交通安全教育 | 自治会など地域単位での交通安全教育 | 勤務先での交通安全教育 | 通行人や自転車利用者に対して配布する |
|------------|---------------|------------|-----------------|------------------|-------------------|-------------|--------------------|
| 全体 | 1,788 | 28.9 | 55.6 | 51.0 | 14.6 | 14.5 | 12.8 |
| 男性・18～19歳 | 13 | 23.1 | 46.2 | 30.8 | 7.7 | 15.4 | 7.7 |
| 男性・20～29歳 | 41 | 22.0 | 46.3 | 51.2 | 9.8 | 14.6 | 14.6 |
| 男性・30～39歳 | 70 | 32.9 | 61.4 | 52.9 | 11.4 | 18.6 | 11.4 |
| 男性・40～49歳 | 98 | 24.5 | 49.0 | 49.0 | 11.2 | 21.4 | 10.2 |
| 男性・50～59歳 | 134 | 25.4 | 56.7 | 50.7 | 17.2 | 12.7 | 10.4 |
| 男性・60～69歳 | 120 | 25.8 | 54.2 | 52.5 | 17.5 | 16.7 | 14.2 |
| 男性・70～79歳 | 144 | 31.3 | 52.8 | 45.1 | 13.9 | 11.8 | 11.8 |
| 男性・80歳以上 | 67 | 20.9 | 34.3 | 35.8 | 13.4 | 10.4 | 7.5 |
| 女性・18～19歳 | 17 | 29.4 | 64.7 | 58.8 | 17.6 | 29.4 | 5.9 |
| 女性・20～29歳 | 50 | 32.0 | 66.0 | 54.0 | 10.0 | 14.0 | 8.0 |
| 女性・30～39歳 | 130 | 42.3 | 66.9 | 59.2 | 20.0 | 17.7 | 12.3 |
| 女性・40～49歳 | 212 | 36.3 | 66.5 | 60.8 | 17.9 | 17.9 | 13.7 |
| 女性・50～59歳 | 203 | 33.5 | 63.1 | 57.1 | 18.2 | 16.7 | 17.7 |
| 女性・60～69歳 | 162 | 27.8 | 60.5 | 56.2 | 10.5 | 11.7 | 15.4 |
| 女性・70～79歳 | 162 | 24.1 | 44.4 | 41.4 | 12.3 | 8.6 | 13.0 |
| 女性・80歳以上 | 86 | 14.0 | 32.6 | 37.2 | 9.3 | 8.1 | 9.3 |

- 表内の薄い網掛け部分は、全体を10ポイント以上上回るものを示している。
- 表内の濃い網掛け部分は、全体を10ポイント以下下回るものを示している。

施策に向けての一言 〈自転車利用環境の改善について〉

多くの人々にとって自転車は貴重な生活の足である。問9 Aは世帯単位での自転車所有台数を尋ねている。全体としては2台保有している世帯が25.3%と最も多く、それに次いで1台保有している世帯が24.8%である。一方、保有していない世帯は22.8%にとどまることから、8割近い世帯が自転車を保有していることがわかる。大まかな傾向として、30件にとどまる6人以上の世帯を除くと、世帯構成人数が多いほど自転車を所有している割合は高い。自転車の利用状況を尋ねた問9 Bを同居家族構成別に見た10ページの図によると、「単身」ないし「夫婦のみ」といった子どものいない世帯においては、相対的に自転車を利用していない世帯の割合が全体に比べて高い（全体だと14.8%が「利用していない」と回答しているのに対して、「単身」世帯では19.8%、「夫婦のみ」世帯では20.8%となっている）。

問10では「自転車に乗るときに不便を感じている」ことについて尋ねている。不便を感じている割合が最も高いのは「路上に駐車している車」で、これについて回答の分布を見ると「特に不便を感じる」が26.1%、「不便を感じる」が42.9%となっている。「歩道部の段差」への指摘はこれに次いで多く、「特に不便を感じる」が23.0%、「不便を感じる」が43.0%となっている。「路上に駐車している車」について「特に不便を感じる」という回答は20歳代以下の男性において多い。これらの人々は比較的高速に移動するための手段として自転車を用いるのであろう。これに対して「歩道部の段差」を相対的に多く指摘しているのは50歳代女性となっている。これらの人たちは日常的な買い物などのために自転車を利用していることが多いと推察される。これら2点の改善は自転車利用者にとって重要点と思われる。加えて駐輪場の少なさを指摘する声も半数を超えている（「特に不便を感じる」が16.2%、「不便を感じる」が36.6%）ことも指摘しておきたい。

問11では安全な自転車走行のための道路施設増設5項目について尋ねている。いずれの項目においても「特に増設すべき」「増設すべき」を合わせた回答の合計は半数を超えている。中でも要望が多いのは「夜間の照明灯」「自転車道や自転車専用通行帯」「防護柵やカーブミラー」である。

問12は自転車の安全利用に関するルールについての認知を尋ねている。「自転車安全利用五則」（問12A）についての回答は全体として「聞いたことがあり、内容も知っている」が29.8%、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が30.9%、「聞いたことがない」が36.0%となっている。また自転車で危険な行為を繰り返した者に対する「自転車運転者講習」受講の認知度（問12B）は「知っている」が36.8%と4割以下にとどまっている。いずれについても更なる周知徹底が望まれる。一方、自転車損害賠償保険等への加入状況（問12C）をみると、「加入している」が55.0%となっているが、「自転車に乗るが加入していない」という回答も12.1%となっている。この「自転車に乗るが加入していない」という層へのさらなるアプローチが望まれるところである。

（関西学院大学 山田真裕）